

高 1 選抜東大英語

高 1 東大英語



## 14章 関係詞1

---

### 要点

#### ■ 確認問題1

##### 解答

- (1) 最近, 向かいの家に住む女性を見かけていない。
- (2) 日本は国土が海で囲まれている国だ。
- (3) 選べるオプションツアーがたくさんある。

#### ■ 確認問題2

##### 解答・解説

- (1) My brother Tom, who has been living in India for the last three years, will return to England next month.

私の brother である Tom は, 1人しかいないので, 非制限用法を用いる。He は主語なので主格の関係代名詞 who を用いる。

- (2) Mr. and Mrs. Smith, who live on Baker Street, have a daughter named Mary.

スミス夫妻本人たちは他にはいないので, 非制限用法を用いる。they は主語なので, 主格の関係代名詞 who を用いる。

#### ■ 確認問題3

##### 解答

- (1) これは世論をつくる方法の1つだ。
- (2) 何も予定のない時間が欲しい。

## 問題

### 【1】

#### 解答・解説

- (1) **イ**「スティーブはその事故現場を見た男性です。」〔「男性がその事故現場を見た」と「スティーブはその男性です」をまとめている文であるので、関係代名詞の主格 who を用いる。〕
- (2) **ア**「会話は我々がそれによって他人の心に達する橋であると言われてきた。」〔前置詞 + 関係代名詞で、この場合、手段を表す by がふさわしい。〕  
○ describe ~ as … 「~を…だと言う」
- (3) **ウ**「私が昨夜寝たベッドはあまり心地よくなかった。」〔slept と the bed の間には前置詞 in が必要。the bed は前置詞 in の目的語であるから、the bed と I slept の間には、目的格の関係代名詞が入るが、それは省略可能。関係代名詞 that はイのように前置詞の前に置くことはできず、また、**エ**のように「前置詞 + 関係代名詞」の関係代名詞は省略できない。〕
- (4) **ウ**「しかしながら、我々が最善を尽くせなかった場合もある。」〔we failed to do our best *in* the cases 「我々はその場合に最善を尽くせなかった」から、**ウ**が正解。〕
- (5) **ア**「そのパーティは、そこでは私は主賓であったが、非常に楽しかった。」〔前置詞 + 関係代名詞の非制限用法〕 ← I was the guest of honor *at* the party
- (6) **ウ**「先週の月曜日、私の妹にあなたを紹介したが、彼女はまたあなたに会いたがっている。」〔前置詞 + 関係代名詞の非制限用法〕 ← I introduced you *to* my sister last Monday
- (7) **エ**「私は、父親が有名な探検家である男性を知っている。」〔← 「その男性の父親」であるので所有格が正しい。〕

### 【2】

#### 解答・解説

- (1) **オ ウ エ イ カ ア**

You say: What do you (think of the new shop which has just opened) around the corner? 「角に開店した店について姉さんの意見をたずねたい時は、『角の開店したばかりの新しい店をどう思う?』と言えばよい。」

○ What do you think of ~? 「~についてどう思うか。」

- (2) **オ ウ イ エ ア** [力の be が不要]

Almost (any time that suits you will) do.

A: 会議を開くのにあなたにとって最も都合のよいのは何時ですか。

B: あなたに都合のよい時間なら、ほぼどんな時間でも結構です。4時はいかがですか。

### 【3】

#### 解答・解説

- (1) Blessed is he (who expects nothing, for he will never be disappointed). [blessed (幸せな) という補語が文頭に来て、主語と動詞が倒置した CVS の形。]
- for ~ 「というのは~」 [「理由」を表す等位接続詞]
  - disappointed 「失望した、がっかりした」
- (2) Children (whose parents work abroad are often sent) to boarding school.
- whose parents = the children's parents
  - abroad 「外国に；外国で」
  - boarding school 「寄宿学校」
- (3) These fast food restaurants just (suit those who have to keep moving).  
「おあつらえ向きだ」 → 「適している」  
「席のあたたまる暇のない」 → 「ゆっくり座っている暇がない」 → 「絶えず動き回っている」
- suit ~ 「~に適する」
  - those who ~ 「~する人々」
  - keep moving 「移動し続ける、動き回る」
- (4) When I arrived (at the station, I found the train I wanted to take had already started).
- the train I wanted to take had already started [train と I の間に関係代名詞 which [that] が省略されている。主節の動詞 found の時よりも前の時を表す。]

### 【4】

#### 解答・解説

- (1) 我々のほとんどは、他人が自分について言うのを聞きたくないと思う自分に関することを言う。我々はそう思ってもらわないために、そういうことを言うのだ。
- in order that S may (not) ... 「Sが…する [しない] ように」
- (2) 実際に見たり、聞いたりすることのできないいろいろなものを、テレビを通じて知ることができる。
- actually 「実際に」
- (3) 誰もが犯す最もありふれた誤りの1つは、それが要する時間の価値以下しかない (→ それに時間を費やすだけの価値のない) 事に自分の精力を使い果たすことである。

### 【5】

#### 解答

- (1) Mt. Fuji, which we climbed yesterday, is the highest mountain in Japan.
- (2) Mr. X, who appeared on television yesterday, once taught English here.
- (3) There are three Akiras in the class. The Akira whom I met yesterday is the gentlest young man of the three.

**解説**

- (1) 富士山それ自体は1つだけなので、非制限用法を用いる。なお、非制限用法の関係詞は省略できない点に注意。
- (2) X氏は1人しかいないので非制限用法。
- (3) 「このクラスにはアキラという名前の人が3人います」は There are three Akiras in the class とするが、「～という名前の人」を表す場合「固有名詞の普通名詞化」が起こる点に注意。「昨日私が会ったアキラ君」は、前の文の「アキラという名前の3人の人」を受けているので、ここでは限定用法にする。また、人名には無冠詞が原則ではあるが、同じ名前の人を区別する場合は、“the + 人名”とする。したがって、「昨日私が会ったアキラ君」は the Akira whom [who, that] I met yesterday [the Akira I met yesterday]. とする。

**【6】**

**解答**

「全訳」下線部(1)～(3)参照。

**全訳**

人々が神や女神たちを信じるのをやめたあとも、長い間神話は残った。今日でもなおこのような古代の物語は何度も読み返されている。神話のテーマは現代の新たな物語に使われている。(1)登場人物に現代の衣装をつけさせて現代の環境に設定することができる古代の神話は多い。現代化されているけれども、基本的な話の筋は変わらないままだ。「マイ・フェア・レディ」というミュージカルはその一例である。「マイ・フェア・レディ」はジョージ・バーナード・ショウの戯曲に基づいている。この戯曲はイライザという名前の、ロンドンの貧しい少女に関するものである。(2)イライザは話し方と作法を直すことを教えてくれる学者によって、気品ある女性に変身する。その後、学者は彼女に恋をする。ショウはこの戯曲を「ピグマリオン」と呼んだ。彼はそれをギリシア神話に基づいて書いた。(3)その神話は、石の塊から美しい女性像を創る彫刻家の話を伝えている。彼はその像に恋をするのだ。

**注**

- ℓ.1 ○ mythology 「(集合的に) 神話」 cf. myth ((個々の) 神話)
- ℓ.9 ○ fashion ~ out of ... 「～を…から作る」
- ℓ.10 ○ block of stone 「石の塊」

**【7】**

**解答**

A.

- (1) 7時30分 (2) 1時間以上 (3) 電話をすること
- (4) 来る途中で(渋谷のケーキ屋さんで)おいしいフルーツケーキを買ってくるということ。

B.

- (1) It's already 7:30. I wonder (how) (much) (later) he is going to be.
- (2) Oh, maybe he got stuck in traffic. You know (what) the traffic (is) (like) in

Tokyo around the end of the month.

(3) Well, he (shouldn't) (be) late then. Why don't you give him a call and (see) (if) he's left?

(4) No, he (couldn't) (have). I was just talking to him last night.

(5) Oh well, (I'm) (sure) he is going to get off the subway at Shibuya to buy the cakes. He will probably (walk) (here) (from) (there).

**Script** .....

**CD 2**

A : It's already 7:30. I wonder how much later he is going to be.

B : Oh, you know John. He never arrives on time.

A : Yes, but more than an hour late! My dinner will be ruined.

B : Oh, maybe he got stuck in traffic. You know what the traffic is like in Tokyo around the end of the month.

A : Yes, but he said he was taking the subway, so he wouldn't get caught in traffic.

B : Well, he shouldn't be late then. Why don't you give him a call and see if he's left? Maybe he forgot about the invitation.

A : No, he couldn't have. I was just talking to him last night. Anyway, let me just give him a call. He's got his mobile phone ... No answer. He must be out of the service area.

B : Don't worry. I think he is now on the subway on his way here.

A : Oh, now I remember. He said he was going to buy nice fruit cakes on the way over at the cake shop in Shibuya.

B : Oh well, I'm sure he is going to get off the subway at Shibuya to buy the cakes. He will probably walk here from there.

**全訳** .....

A : もう7時半だわ。彼、どれくらい遅れるのかしら。

B : ああ、ジョンのことだからね。時間通りに来たためしがないんだ。

A : ええ、でも1時間以上の遅刻よ。せっかく私が作った料理が駄目になるわ。

B : たぶん渋滞に巻き込まれたんだ。東京では月末は道が混むってことを知っているだろ？

A : ええ、でも、彼は地下鉄を使うって言ってたから、渋滞には巻き込まれないわ。

B : じゃあ、遅れるはずがないね。電話して、家を出たかどうか確かめてみたら？ 招待されていることを忘れたのかもしれない。

A : いいえ、そんなことはあり得ない。夕べ、彼と話していたばかりなんだから。とにかく、電話してみる。携帯電話を持ってるから。……出ない。きっと圏外にいるわ。

B : 心配なくていいよ。地下鉄に乗って、ここに向かっていて途中だと思うよ。

A : ああ、思い出した。来る途中に渋谷のケーキ屋さんでおいしいフルーツケーキを買うって言ってたんだ。

B : それなら、きっと、ケーキを買うために渋谷で地下鉄を降りるよ。たぶん、そこからここまで歩いてくるんだね。

**【8】**

**解答**

- (1) it → 不要「若い工学の学生チームが、燃料としてガソリンの代わりに水を用いる新しい型のエンジンを発明した。」〔which は a new type of engine を先行詞にとり、uses の目的語は water だから、which は目的格ではなく、主格である。よって、it は不要。〕
- engineering 「工学」
  - instead of ～ 「～の代わりに」
  - for ～ 「～として」
  - fuel 「燃料」
- (2) at → 不要「これは私が長い間訪れたいと思っていた寺院です。」〔visit は他動詞なので、目的語が必要。目的語は which の先行詞である the temple である。よって、前置詞 at は不要。〕

## 添削課題

### 解答

- (1) What was the name of the man who lent you the money?
- (2) What happened to the picture which [that] was on the wall?
- (3) Everything that happened was my fault.
- (4) Unfortunately, we couldn't go to the wedding which we were invited to.
- (5) I know a woman whose mother owns a restaurant.
- (6) The strike at the car factory, which lasted ten days, is now over.



## 15章 関係詞2

### 要点

#### ■ 確認問題 1

##### 解答・解説

(1) who

元になる文が He is **a boy**. と I think that **he** is honest. であることを考える。

(2) whom

元になる文が He is **a boy**. と I think **him** to be honest. であることを考える。

#### ■ 確認問題 2

##### 解答・解説

(1) Alan gave his mother a bunch of flowers, which made her happy.

(2) I was lazy, which my brother never was.

, which は、形容詞節内で**補語**になることもできる。

#### ■ 確認問題 3

##### 解答

(1) ティムは私が今まで教えた中で最も頭のよい生徒だ。

(2) 富士山を見た人で誰がその美しい形を忘れることができるだろう。

(3) これは政府が発表したうちで、信用できるただ1つの結果だ。

#### ■ 確認問題 4

##### 解答

(1) すでにしてしまったことを心配しても意味がない。

(2) 道に迷い、さらにひどいことに、財布をなくした。

## 問題

### 【1】

#### 解答・解説

- (1) イ「ジョンはメアリーを侮辱したが、私なら決してそんなことはしないだろう。」〔非制限用法の which で、前節の一部 (insulted Mary) を受ける。〕
- (2) ウ「その小屋には小さな部屋が2つあったが、そのうち小さい方が台所として利用できた。」〔← *the smaller of the two small rooms in the cottage* (which の先行詞は, two small rooms である。また2者の比較なので the + 比較級。)]
- (3) ア「シェークスピアの美しい詩を読んだことがある人で、誰がそれらの魅力を忘れることができようか。」〔「いや、誰もできない。」という意味合いを含む。先行詞が who という疑問詞なので that を用いる。〕
- fascination 「魅惑, 魅力」
- (4) ウ「私は最良の友達だと思っていた人にだまされた。」〔関係詞節に I thought と he was my best friend の2つの節が組み込まれた構造。関係詞はその節の中で主語の役割を果たすので who になる (= 関係詞連鎖)。〕
- (5) イ「太陽の影響を受けないものはこの世にない。」〔関係代名詞が先行詞とするのは nothing なので that を用いる。〕
- on earth 「この世に, 地上に; 一体」(疑問詞を強める)

### 【2】

#### 解答・解説

- (1) who, was 「私が正直だと思っていた少年が私を裏切った。」〔関係詞連鎖 who〕
- (2) what, said [meant] 「私は意思を通じさせることができなかった。」
- (3) what is 「彼はいわゆる道徳的美点の見本だ。」
- what is called ~ 「~と呼ばれるところのもの」
  - so-called は時として「(そうは思わないが) いわゆる~」という軽蔑的なニュアンスを含む。what is called にはそのような含みはない。

### 【3】

#### 解答・解説

- (1) 我々が外部の人に対して示す立派な礼儀作法を、自分の家族にまで及ぼすことはめったにないというのは嘆かわしい。
- (2) 講義で聞いたことを覚えておくのに役立つ私知っている唯一の方法は、メモを取るというものである。
- The only system (that) I know which will ~ lecture  
先行詞                      関係詞節①                      関係詞節②  
二重限定。関係詞節①でまず限定し、その限定されたものをさらに関係詞節②で限定する。

#### 【4】

##### 解答

- (1) 幼児は、自分に対する母親の行動に非常に素早く反応する。幼児の行動の発達にとって非常に重要なのは、幼児に与えられる食材よりも、それが与えられる方法である。
- (2) 過去に対する関心が多くの種類刺激によって誘発される。冒険や逃避を求めて歴史に目をむける作家や読者もいれば、歴史が教えてくれると信じている教訓を探し求める作家や読者もいる。

#### 【5】

##### 解答

- (1) I do not understand what you are saying.  
(2) What you are saying is very important.  
(3) (That) is (what) he (said).

##### 解説

(1), (2)は what の基本的な考え方が身についていれば対応できる。(3)は That で始めて、That is what he said. とする。is の代わりに was を用いて、That was what he said. としても間違いではない。

#### 【6】

##### 解答

「全訳」下線部(1), (2)参照。

##### 全訳

(1)典型的と思われるイギリスの警官が、イギリスの観光客向けのあらゆるパンフレットに見られる時代があった。奇妙な形のヘルメットと、拳銃を携行していないという事実によって、警官は観光客にとっての独特なシンボルになった。父親のような物腰の愛想のよいイギリスの「警官」というイメージも国内ではよく知られていて、「ドクグリーン署のディクソン巡査」のようなテレビの人気連続ドラマによって、そのイメージは強くなった。このような良いイメージは、全てが作り話というわけではなかった。(2)警備体制は自分の「巡回区域」、すなわち、徒歩または自転車でパトロールする任務のある特定区域を持つ、たった一人の警官を基にしていた。地元の警官は地元の通りにいる見慣れた人物、すなわち人々が全面的に信頼できると感じるような安心させる存在であった。

##### 注

- ℓ. 1 ○ supposedly … 「…と思われる」  
ℓ. 2 ○ brochure 「パンフレット」  
ℓ. 4 ○ bobby 「警官」  
○ with his fatherly manner 「父親のような物腰の」  
ℓ. 6 ○ myth 「作り話」  
ℓ. 7 ○ neighbo(u)rhood 「地域、区域」本文ではイギリス英語綴りとなっている。  
ℓ. 8 ○ reassuring 「安心させる」

【7】

解答・解説

(1)

「全訳」下線部(1), (2)参照。

(1)

○ Old English (古英語) は, アングロサクソン族が使っていた言語で, 彼らが大ブリテン島に移住した際, 一緒に持ち込んだ。「アングロサクソン語」ともいう。

○ that は the language を先行詞とする主格の関係代名詞。

○ what is now England and southern Scotland : what は関係代名詞で, 直訳すると「現在, イングランドとスコットランド南部であるもの」。

(2)

○ Latin words,

↑

which the Anglo-Saxons had borrowed from the Romans before invading Britain

○ 目的格：関係代名詞 which の非制限用法は, 先行詞 Latin words に追加的な説明をしている。

○ 先行詞は, 他動詞 had borrowed の目的語となっている。

= The Anglo-Saxons had borrowed Latin words from the Romans…

S V O

○ invade ~ 「~を侵略する」 < invasion 「侵略, 侵入」, invader 「侵略者 (国)」

(2) アングロサクソン族がそれまで見たことがなかった (大ブリテン島の) 田園地帯を表すのに使われた。[ℓ. 6 ~ ℓ. 7 The Anglo-Saxons borrowed some Celtic words for parts of the countryside which were new to them 参照。]

○ countryside 「田舎, 田園」は, 都会から離れた地域そのものより, そこにある丘や川, 木々などの自然を強調する語。例を挙げると Thames はケルト語を起源とする語で, ケルト語では dark river を意味する。

(3) 3世紀頃からゲルマン民族が石や武器に刻んで用いた文字。(27字)

第4段落を簡潔にまとめるとよい。

○ those who ~ 「~する人々」

○ a people < peoples 「民族, 国民」 cf. people (人々) は a person の複数形。

○ weapon 「武器, 兵器」

(4)

ア ○ ℓ.17 The arrival of Augustine ~ ℓ.18 to Old English に一致する。

イ × ℓ.19 Augustine and the monks ~ ℓ.20 who was a Christian. に矛盾する。主格の関係代名詞 who の非制限用法は, 先行詞 Queen Bertha に説明を補足している。従って, 王はキリスト教徒ではない。

ウ × ℓ.20 In the following century ~ ℓ.21 over the south of the country. に矛盾する。

エ × ℓ.22 ~ By the end of the seventh century all the Anglo-Saxon kingdoms were Christian. に矛盾する。

オ × ℓ.24 At first the monks wrote only in Latin, に合わない。

カ ○ 第6段落で、他の北ヨーロッパ諸国とは異なりイングランドでは、修道士たちがアングロサクソン族の言語である古英語を使った、とある。その後、イングランドは学問の中心地となったので、正しいと考える。

全訳

(1)古英語とは、5世紀中頃から12世紀中頃にかけて、現在のイングランドとスコットランド南部にあたる地方で話されていた言語である。この時期、古英語は変化し、他の言語から単語を取り入れた。

他の侵略者とは異なり、アングロサクソン族は自分たちの言語を使い続け、大ブリテン島に住むケルト族の言語を学ぶことはなかった。彼らはまた、自分たちの地方語にケルト語の単語を取り入れることもほとんどなかった。古英語に含まれるケルト語は、20語ほどしかない。アングロサクソン族は、彼らが初めて見る田園地帯に対しては、いくつかのケルト語の単語を借用した。しかし、古英語には普段使うケルト語の単語はほとんど含まれておらず、その理由は誰にもはっきりとは分からないのである。

5世紀、6世紀の古英語には、ゲルマン語以外の単語もあるにはあった。(2)これらはラテン語の単語だが、アングロサクソン族はそれらの語を大ブリテン島を侵略する前にローマ人から借用したのだ。だが、ラテン語の単語も多くはなく、50語ほどしかなかった。

アングロサクソン人はほとんどが読み書きができなかったが、字を書ける人はルーン文字を使った。これは紀元3世紀頃からゲルマン民族が使っていた文字である。ルーン文字は石や武器に刻まれ、人がなにかを作ったとか、所有していたことを伝えるのに用いられることが多かった。

西暦597年に聖アウグスティヌスと約40人の修道士がやって来たことで、大ブリテン島でのアングロサクソン族の生活と古英語に変化がもたらされた。彼らはアングロサクソン族にキリスト教について教えるためローマから来た。アウグスティヌスと修道士たちは、ケント国のエセルバート王とキリスト教徒であるバーサ王妃に歓迎された。翌7世紀になると、これらの修道士に他の者も加わって、(アングロサクソン族が支配するイングランド)全国土の南部にキリスト教を広めた。北部では、西暦635年にやって来た聖エイダンというアイルランドの修道士がキリスト教を布教した。7世紀末には、すべてのアングロサクソンの王国がキリスト教になった。

最初は、修道士たちはラテン語でしか文を書かなかったが、その後古英語を使い始めた。これは例外的なことであり、他の北ヨーロッパ諸国の人々は、それよりはるか後になってようやく自分たちの言語を使って文を書き始めた。学問がアングロサクソン族の間で広まり、栄えた。そして、8世紀にはイングランドは西ヨーロッパの学問の中心地となった。

注

ℓ. 4 ○ the Anglo-Saxons 「アングロサクソン族」5世紀にブリテン島を侵略したゲルマン民族で、主にアングル族とサクソン族を指す。

ℓ. 8 ○ be sure of ~ 「(人が) ~を確信する」

ℓ. 16 ○ own ~ 「~を所有する」

ℓ. 19 ○ Christianity 「キリスト教」 < Christian *n.* 「キリスト教徒」, *adj.* 「キリスト教の」

○ King Aethelbert of Kent 「ケント国のエセルバート王」ケントは、5世紀から9

世紀にイングランドに存在したアングロサクソン7王国の1つ。

ℓ. 20 ○ following 「次の, 翌」

ℓ. 22 ○ Irish 「アイルランド (人) の」 < Ireland 「アイルランド」

○ the Irish monk Aidan, who arrived there in 635 : 主格の関係代名詞 who は先行詞 the Irish monk Aidan に付加的情報を与えている非制限用法。

ℓ. 23 ○ kingdom 「王国; 王領」

ℓ. 25 ○ unusual 「普通でない, まれな」 (= exceptional)

ℓ. 26 ○ spread 「広まる, 普及する」

Ex. The rumor spread rapidly. (うわさはすぐに広まった。)

## 【8】

### 解答・解説

A.

Make (sure it is exactly what you have ordered).

○ make sure (that) ~ 「~であることを確かめる」

○ exactly 「正確に, まさしく」

○ what you have ordered 「あなたが注文したもの」 [have ordered の目的語である先行詞を含む関係代名詞 what。]

B.

who → which 「彼は非常に勤勉な学生であるが, 彼のお兄さんはそうではなかった。」 [先行詞が人そのものではなく, その地位・職業・性格・特徴などを表す場合は which を用いる。

which はそれが導く節の補語として働く。]

## 添削課題

### 解答

- (1) Jill doesn't have a cell phone, which makes it difficult to contact her.
- (2) Our flight was delayed, which meant we had to wait four hours at the airport.
- (3) Jack tried on three jackets, none of which fit him.
- (4) I met a woman who I thought was a Russian.
- (5) I met a woman whom I thought to be a Russian.
- (6) I don't agree with what you've just said.

## 16章 関係詞3

---

### 要点

#### ■ 確認問題1

##### 解答

- (1) あなたは自分のためになるような友達を選びなさい。
- (2) 私はリサが持っているのと同じ辞書が欲しい。
- (3) 父はいつも通り、犬を散歩に連れて行った。
- (4) 誰にでも弱点はある。

#### ■ 確認問題2

##### 解答

- (1) 娘が生まれた瞬間は忘れがたかった。
- (2) 言論の自由のない社会は自由のない社会である。
- (3) 皆が平等という理想郷を夢見た。
- (4) それはあなたが遅刻してきた理由にはならない。
- (5) 食べ方は文化による。
- (6) 母は1958年に生まれたが、その年に東京タワーが建てられた。
- (7) 私たちは山の頂上に登り、そこでお昼にした。



## 問題

### 【1】

#### 解答・解説

- (1) **イ**「これが、私とその会の会員になれない理由です。」〔空所には prevents の主語として働く、関係代名詞が入る。〕
- prevent ~ from …ing 「～が…するのを妨げる → ～が…できない」
- (2) **ウ**「消防士たちは家々が燃えている通りに到着するのが大変だった。」〔the houses were on fire on [in] the street から、空所に入れるのは関係副詞 where がふさわしい。〕
- have trouble [difficulty] …ing 「…するのが大変だ、…するのは難しい」
  - on fire 「燃えている」
- (3) **ア**「私はこの公園が好きで、父も昔よくここに来ていた。」〔my father used to visit this park から、空所に入れるのは visit の目的語であるから、this park を先行詞とする関係代名詞 which が入る。〕
- (4) **エ**「ある人気アイドルが、ホテルの従業員に自分の部屋へ侵入された事件を覚えていますか。ただ彼はすぐに逃げ出したのですが。」〔この場合の case は「事件・問題」の意味だが、関係詞が文の要素にはなっていないので、関係副詞を用いる。この場合「状況」(広い意味で「場所」)を表す関係副詞 where が入る。〕
- employee 「従業員」(⇔ employer 「雇い主」)
  - have ~ do 「～に…させる、～に…される」(ここでは被害の意を表している。)
  - break into ~ 「～に侵入する、押し入る」
- (5) **イ**「山田先生は他のどの先生よりもずっと英語を教えるのが上手だ。だから、彼はほとんどすべての生徒から尊敬されている。」
- this is why ~ 「これが～の理由である → こういうわけで～である」
  - far 「比較級を強める副詞」
  - be looked up to 「尊敬されている」(⇔ be looked down on 「見下されている」)
- (6) **エ**「彼は私に、私が興味を持つような雑誌を送ってくれた。」
- such ~ as … 「…のような～」
- (7) **イ**「近頃の若者にはよくあることだが、彼は漫画なしではやっていけない。」
- as is usual with ~ 「～にはよくあることだが」
  - cannot do without ~ 「～なしではやっていけない」
- (8) **エ**「彼は、生きていくのに本当に必要とした金以上は受け取らなかった。」〔than には関係代名詞的な用法がある。〕
- (9) **イ**「私は彼が今持っているのと同じ時計を買うつもりだ。」
- the same ~ as … 「…と同じ(類の)～」

## 【2】

### 解答・解説

- (1) There is (no one but is fond of being praised). [先行詞が no one と否定の意味を持つので、but は that (関係代名詞) ~ not の意味で用いる。]  
○ be fond of …ing 「…するのを好む」
- (2) Can you imagine (a time when the world is free of war)?  
○ time when ~ 「~の時代」 [時を表す語を先行詞とする関係副詞 when]  
○ be free of ~ 「~がない, ~に悩まされない」
- (3) This is (how we mastered English pronunciation easily). [easily の位置は we easily mastered でも可。]  
○ this is how ~ 「これが~のやり方だ → このようにして…」
- (4) That is (the reason why non-violence is considered to be a virtue).  
○ that is (the reason) why ~ 「それが~の理由だ → そういうわけで~」  
○ consider ~ (to be) … 「~を…とみなす」  
○ virtue 「美德, 徳」
- (5) This is (where I absolutely disagree with you). 《point が不要》 [「これが私があなたと全く意見が違うところです。」という意味。where の前に the point が省略されていると考える。]

## 【3】

### 解答

熱帯雨林は主として発展途上国に存在しているが、このような国は不幸にも、元に戻せない破壊を独力で止める能力に限りがある。ここが、世界最大の材木輸入国として日本がもっと大きな役割を演じるように求められているところである。 材木輸入全体の約 40% を日本が占めている。そしてもちろん、日本の材木の一部は熱帯雨林からきている。

## 【4】

### 解答

- (1) This is the mine where seven men lost their lives last month.  
(2) Is this the beauty shop where you go?  
(3) This is the hall where the conference is in session.  
(4) This is where Setagaya Street meets Komazawa Street.

### 解説

本問 (1), (3) は This is the mine where ~ ., This is the hall where ~ . と This is で書き出すのがポイント。Here is ~ とはできない点に注意。

(2) は疑問文なので Is this the beauty shop where ~ ? とする。「あなたの行きつけの」の「行きつけの」は、「あなたが行く」と考え、go で処理する。

(4) は「ここが~するところです。」は、This is where ~ . で書き出す。Here is ~ . の形

式を用いた人もいるとは思いますが、これは「ほら、ここに～がありますよ。」であり、ここで用いることが出来ない。where は関係副詞なので、where 以下には、完成された文が続く。「ぶつかる」は meet を使う。

【5】

**解答** .....

我々が昔の動植物について現在これほど多くのことを知っている理由は、多くの場合、地球が自身の記録を保存してくれているからである。泥が強い力で圧迫されて一体化されると、それは地球の地殻が隆起する時に起こることがあるのだが、この泥はやがて石に変わるのである。

【6】

**解答** .....

「全訳」下線部(1)、(2)参照。

**全訳** .....

英語の発達は、非常に明確に3つの時期に分けられる。(1)古英語期は最初のゲルマン部族がイングランドに定住し始めた、紀元450年頃から1100年頃まで続いた。中英語期は1100年頃から1475年頃まで続いた。そして、近代英語期は1475年頃始まり現代まで続いている。(2)当然ながら、各時期の変わり目はこのような年代が表すほど急激ではっきりしたものではなかった。英語が変化していない年はなかったし、英語が完全に画一的に話されている時でもなかった。それでも、3つの時期の特徴は大きく異なっているので、古英語と近代英語の両方をよく知っている人でも、さらに勉強しなければ、中英語の文書を読むのにかなり苦勞するだろう。

**注** .....

- ℓ.1 ○ fall into ~ 「～に分けられる」
- ℓ.7 ○ uniformity 「均一性、画一性」

【7】

**解答** .....

A.

	アメリカ	日本
チームが代表しているもの	地域(市や州)	会社(企業)
応援の仕方	まとまりがなく個人の意思。 野次も多い。	まとまって応援する。 野次はあまりない。
観客の試合への参加	できる(選手を助けたり邪魔したりする。スタンドに身を乗り出してボールを取ろうとする)。	できない。

B.

- (1) Certainly in Japanese baseball there is (an) (element) (of) (this) , but the teams basically belong to companies like railway companies, newspaper organizations, and there are some areas that (have) (nothing) (close) (to) a local team.
- (2) Another difference is the way fans cheer. American cheering is (unorganized) and (spontaneous) and when the local team is playing badly, will quite easily (turn) (into) booing.
- (3) And finally, in America, people often (are) (directly) (involved) (in) a game. A player will lean into the stands to catch a foul ball, and the fans can help or distract him, (depending) (on) which team they are supporting.

**Script** .....

**CD 4**

Although American and Japanese baseball fans see basically the same game when they go to the ballpark, there are some notable differences.

To begin with, American people go to support their local teams, which are regarded as representatives of their city or state. Certainly in Japanese baseball there is an element of this, but the teams basically belong to companies like railway companies, newspaper organizations, and there are some areas that have nothing close to a local team.

Another difference is the way fans cheer. American cheering is unorganized and spontaneous and when the local team is playing badly, will quite easily turn into booing. Japanese fans, on the other hand, root in an organized way, and they are not good at booing.

And finally, in America, people often are directly involved in a game. A player will lean into the stands to catch a foul ball, and the fans can help or distract him, depending on which team they are supporting. And fans will often lean out into the field of play to try to grab a ball. In Japan, this is impossible, since a tall wire screen separates the stands from the playing field. This is more orderly and safe, to be sure, but it is also more dull.

**全訳** .....

球場に行くと、アメリカの野球ファンも日本の野球ファンも、基本的に同じような試合を見ののだが、はっきりとした違いがいくつかある。

まず、アメリカの人たちは、自分の市や州の代表と見なされている地元のチームを応援に行く。もちろん日本の野球にもこのような要素はあるが、野球チームは基本的に鉄道会社や新聞社などの会社に属していて、地元のチームと言えるチームがない地域もあるのだ。

もう一つの違いは観客の応援の仕方である。アメリカの応援はまとまりがなく個人の意思によるものであり、また、地元のチームが苦戦すると簡単に野次る。一方、日本の観客はみんながまとまって応援をするし、野次るのはあまり得意ではない。

そして最後に、アメリカでは、観客が試合に直接参加する。選手がファウルボールを取ろうとしてスタンドに身を乗り出すと、観客はどちらのチームを応援しているかによって、その選手を助けたり邪魔したりすることができる。そして、観客はよく球場に身を乗り出してボール

を取ろうとする。日本ではこれは不可能である。というのは、高い金網のフェンスでスタンドと球場が分けられているからだ。このほうが確かに規律が守られていて安全だが、つまらなくもある。

**注**.....

- cheer 「声援を送る, 応援する」
- unorganized 「組織的でない, まとまりのない」 ⇔ organized
- turn into ~ 「~に変わる, ~に向かう」
- booing 「野次ること, ブーイング」
- be involved in ~ 「~にかかわる, ~に参加する」 involve は「~を巻き込む, かかわらせる」という意味の他動詞。
- lean 「(ある方向に) 体を曲げる」
- distract 「~の注意をそらせる, ~を動転させる」
- dull 「面白くない, 退屈な」

## 添削課題

### 解答

- (1) Vienna is an important place which links Eastern Europe and Western Europe.
- (2) I have a deep affection for the town where I was born and brought up.
- (3) Farm life is quite different from the way it is commonly imagined.
- (4) Do you remember the time when [that] I took you to Joe's?
- (5) He is the only man I know who will do anything for the attainment of his ends.



E1JS/E1J  
高1 選抜東大英語  
高1 東大英語



会員番号	
------	--

氏名	
----	--

不許複製